

海外人材開発部を新設

医療法人偕行会グループ（名古屋市中川区法華1の161、川原弘久会長、電話052・363・7211）は、外国人スタッフの日本での生活を一括サポートする「海外人材開発部」を新設した。専属スタッフは3人だが、4月に2人増員する計画だ。国内で介護・医療スタッフの確保が難航する中、外国人労働者を増やすために、受け入れ態勢を強化する。

（倉科信吾）

偕行会グループ

偕行会グループは現在（2019年12月24日時点）、EPA（経済連携協定）により約10人の外国人医療・介護スタッフを受け入れている。外国人の国籍はインドネシア、フィリピン、ベトナムからなる。23年3月期には外国人スタッフを30人に引き上げる方針

スタッフ人材不足に対応

受け入れ態勢を強化 生活サポートも推進

人の増加に対応するには、グループで一括してサポートする方が効率的と判断



今後も外国人労働者の増加が見込まれる

し、海外人材開発部を新設することにした。

従来は、外国人の配属部署ごとに住居の手配、生活必需品の用意、生活情報の提供など外国人のサポートをしていた。しかし、外国

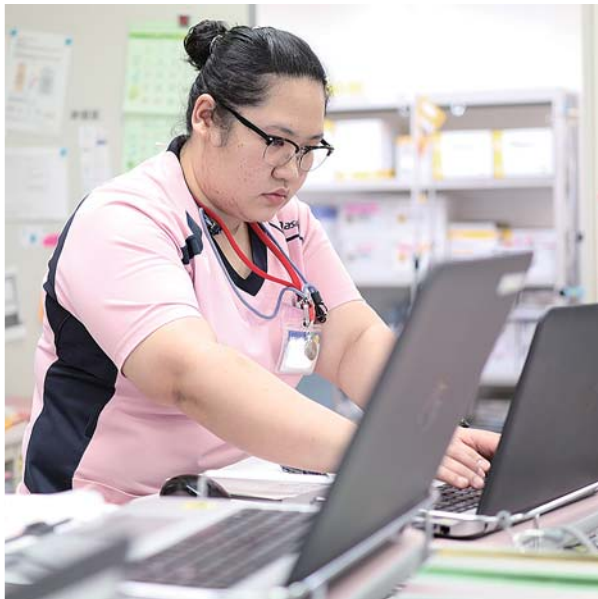
阿部一也部長は「今後は外国人に教える側の日本人スタッフのレベルアップが一層求められる。課題は山積している」と気を引き締める。相互理解の立場から、20年度中に本部でインドネシア人スタッフが講師となり、日本人スタッフがインドネシア語を定期的

に学習する計画も策定している。

偕行会グループは、外国人スタッフの増加に合わせ、5月以降も海外人材開発部の専属スタッフを増やす方針で、外国人が働きやすい環境づくりに早急に取り組んでいく。



海外人材開発部で会議



外国人が介護・医療現場で活躍中

中部経済新聞社の
許諾を得て掲載しております

